

WWFジャパンではポイント解説セミナーを実施

SBTiの専門家を招待し、ネットゼロ基準の改定案について議論。参加者数547名。



2025年4月24日（木）16:00～
オンライン（zoom）

登壇者：

SBTi Tracy Wyman

SBTi Kim Schoppink

WWFジャパン 羽賀

登録者数 674名（当日視聴者479名）

うち	大企業	373名
	中小企業	105名
	金融機関	25名
	その他	171名

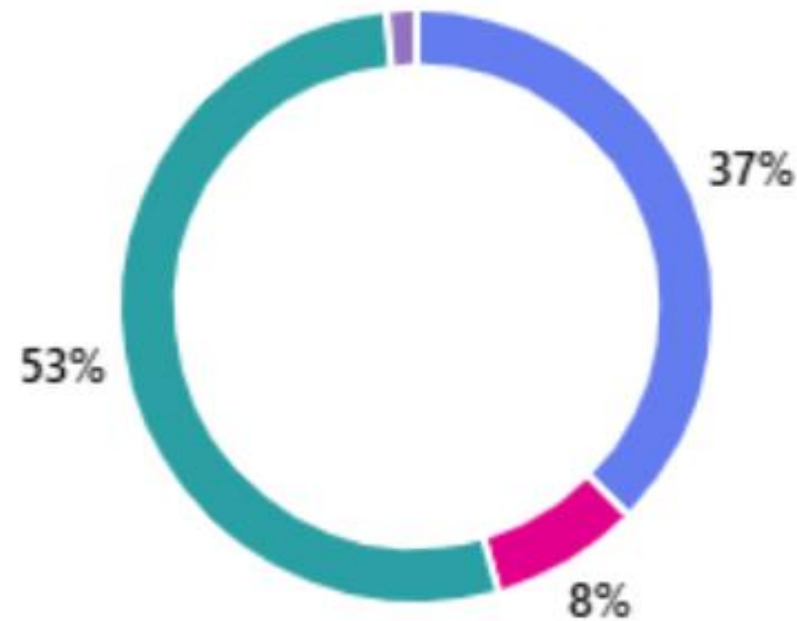
録画・資料はこちら

<https://www.wwf.or.jp/event/organize/5941.html>

日本のステークホルダーは今回の改定をどうとらえているか

回答者の37%が今回の改定案を肯定的に捉えている一方で、8%が否定的に捉えている。過半数の回答者が、どちらでもない/わからないを選択。(n=123)

● 今回の改定を肯定的にとらえた	46
● 今回の改定を否定的にとらえた	10
● どちらでもない/わからない	65
● その他	2



回答者内訳

企業（金融機関を除く）	9	7
金融機関		4
その他	2	2
※その他は研究機関・教育機関、自治体、NGOなど		

今回の改定案を肯定的に捉えた人の声

- ・ スコープ 3 の改定（企業）
- ・ スコープ 3 のGHG削減の重要性を認識・反映している（企業）
- ・ より 削減努力の実態を捉えている（企業）
- ・ 1.5°C目標達成に向けた本気度を感じたため（企業）
- ・ スコープ 1 と 2 の切り離しは、具体的削減施策を推進する中でも重要と感じている（企業）
 - ・ より 実効性の高いネットゼロ認定 となったと思うから（金融機関）
 - ・ 曖昧さが減った
 - ・ より 具体的に、実態に即した改正 と感じたため（自治体）

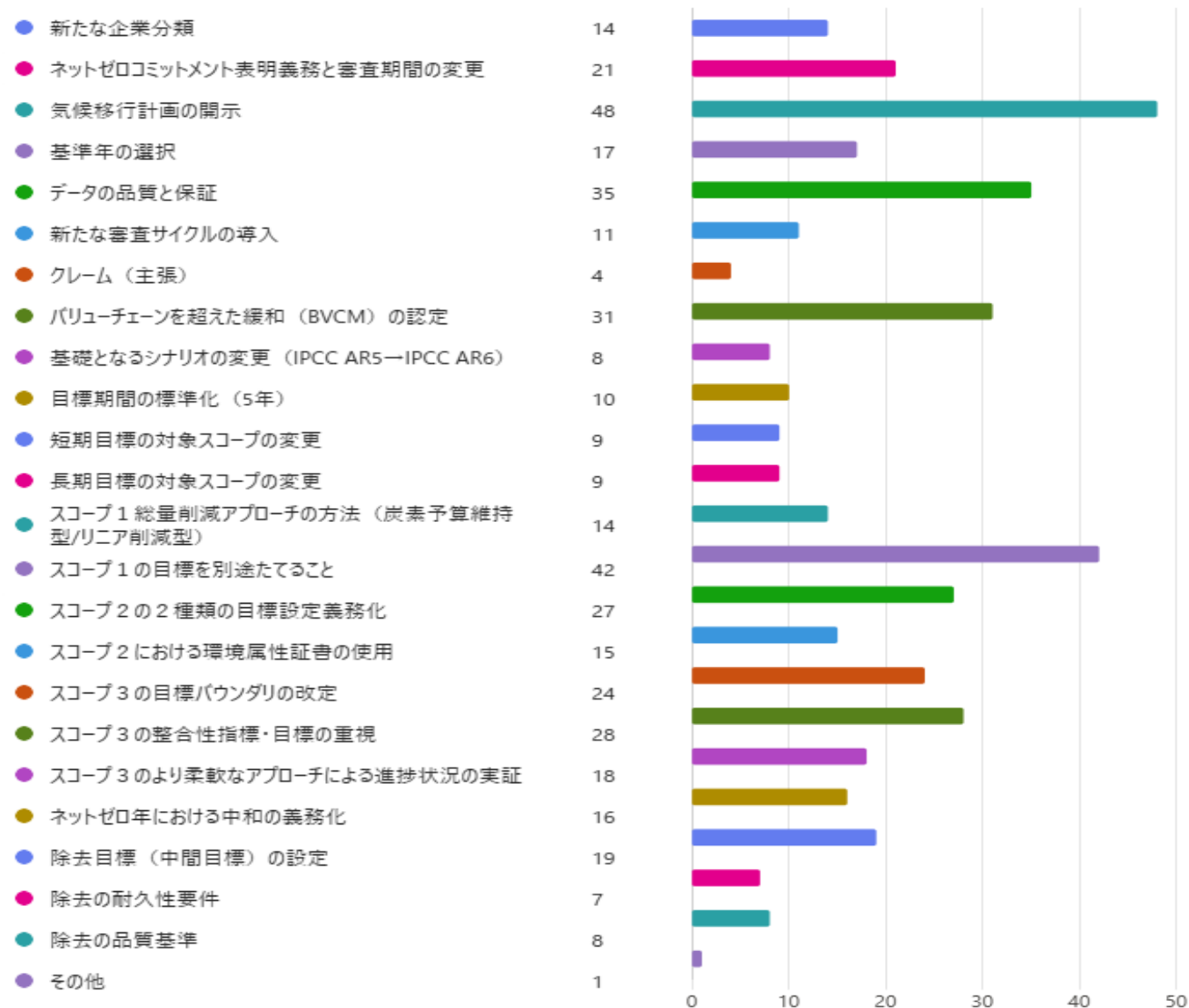
今回の改定案を否定的に捉えた人の声。

- ・ 審査が厳しくなると感じたため（企業）
- ・ さらに対応が厳しくなると感じた（企業）
- ・ 対応がより困難になった印象（企業）
- ・ 認定取得のハードルが高くなったと感じたため（企業）
- ・ 実際にこの基準で削減を進められる企業がどれだけあるのか疑問に感じました（企業）
- ・ スコープ1とスコープ2を分けて目標設定することについて、当社では取組が難しいため（企業）
- ・ 目標設定作業が複雑で、モチベーションが下がり、CO2を削減しようとする意欲ある企業の本質的な心が離れると思う。目標設定が細かすぎて余裕代がなさすぎる。（企業）
- ・ ロケーション基準の設定は、ほぼ意味がない。（企業）
- ・ 非化石証書およびPPAなしにスコープ1を個別にゼロにするのは限りなく現状不可能、スコープ2も系統電力をゼロにするのは現状不可能。おそらくSBT脱退する日本企業が加速する（企業）
- ・ 内容がより複雑になり、目標内容が脱炭素に繋がるのか説明が難しくなった。（企業）
- ・ 改定を行い、様々なメンバーが追従するべきと考えるが、現時点で解決困難な目標(項目)が挙げられていると感じた。そのため、目標未達が「普通」になってしまう可能性があるのではないかと感じた。（企業）

どちらでもない/わからないと答えた人の声。

- ・ まだ具体的内容がよく理解できていないため（企業）
- ・ 他のイニシアティブも活発に動いているため、新たな動きに違和感はなかった。（企業）
- ・ より現実的に、より実効性のあるものに変わっていかうと感じた。企業にとってはいい面も大変な面もある。（企業）
- ・ 社会全体としてより高い目標が必要というのは理解しているが、一企業としては、より厳しい目標基準への対応が悩ましい。（企業）
- ・ 必要な改定とは思うが、実際についていけるか不安（企業）
- ・ 厳しくなる側面と緩和される側面があるが、何れにしても詳細が分からないと判断できない（企業）
- ・ ハードルは上がっているが、より幅広い企業が取り組めるようにも配慮されている（企業）
- ・ Scope 1 と 2 を分けたのは良いと思いますが、（スコープ2で）ロケーション基準を必須とすると日本は石炭やLPGを無くさないので、結果日本の企業は努力してもネットゼロは出来なくなってしまう。（企業）
- ・ 手に負えない（自力ではどうしようもできない領域への）話が多くて呆然とする。バリューチェーンへの働きかけもまだこれからでままならないのに、BVCMと言われても。スコープ2ロケーション基準目標は目標を立ててもアンコントロールラブルで仮に自社でPPAとかやったとて、ロケーション基準値に0.01の影響も出せないと思うと途方に暮れます。（企業）

改定内容で特に关心のあるポイント



新たな改定内容の中で特に关心が高かったものは、

- ・移行計画（11%）
- ・スコープ1（10%）
- ・データ品質と保証（8%）
- ・BVCM（7%）
- ・スコープ3 整合性目標（6%）

まとめ

- ・ 今回の改定について好意的な意見も一定数（37％）あるものの、半数以上の日本企業は今回の改定について、ニュートラルもしくはまだ判断がついていない状況。否定的な意見は8%。
- ・ スコープ3で柔軟性が認められている点は概ね評価されている。
- ・ 野心的な目標設定の重要性を理解・評価する声も多く挙げられたものの、実際に企業としてついていけるかを不安視する声も挙げられた。
- ・ 特にスコープ1やスコープ2（ロケーション基準）に関して個社の力では対応が難しい点に懸念する声や、目標の建付けが複雑になってきていることに戸惑いを感じている声も聞こえた。
- ・ 一方で、そもそも中身についてまだ理解が追いついていない企業も多くいる